

2022年3月期第2四半期  
決算説明会資料

2021.11.26

日本電子株式会社

# 70年目の転進

- アカデミア市場をコアに半導体機器・産業機器・医用機器市場へ新たなソリューションを提供していくことで成長を加速



# INDEX

1. 2022年3月期第2四半期実績および通期予想

2. 各事業の状況

1. 理科学・計測機器事業

2. 産業機器事業

3. 医用機器事業

# サマリー

## 70年目の転進

日本電子の成長指針「70年目の転進」に沿った施策の具現化

## 2021年度上期実績

売上、営業利益、経常利益は過去最高を更新  
また、受注・受注残も過去最高

## 半導体事業が好調

電子ビーム描画装置の売上が拡大傾向

## 2021年度通期見通し

売上高1,280億円、営業利益98億円、経常利益106億円、  
当期純利益74億円

## SI事業高収益化に向けて

新製品・新サービスを市場に投入  
YOKOGUSHI戦略を活かしたソリューション展開

## 1. 2022年3月期第2四半期実績および通期予想

---

# 2021年度第2四半期累計期間決算実績 (P/L)

- 上期の過去最高益を更新

連結数値 (P/L)

	20年度2Q 実績①	21年度2Q 実績②	(単位：億円) 前年比 ②－①
1 売上高	494	534	40
2 売上原価	292	305	14
3 (原価率)	(59.1%)	(57.2%)	(△1.9%)
4 売上総利益	202	228	26
5 販管費	138	150	12
6 研究開発費	39	41	2
7 販売費及び一般管理費合計	177	192	14
8 営業利益	25	37	12
9 営業外収益	6	12	7
10 営業外費用	2	2	△0
11 経常利益	29	47	19
12 特別利益	1	0	△0
13 特別損失	0	0	△0
14 税前当期純利益	29	48	19
15 法人税等	10	11	1
16 当期純利益	19	37	17
為替レート(1\$=)	¥107	¥110	
為替レート(1€=)	¥121	¥131	

## 営業利益増減要因分析 (対前年比)

(単位：億円)

(A) プラス要因	26
1. 数量増	11
2. 原価改善等	10
3. 為替差 (円安)	5
(B) マイナス要因	△14
1. 販売管理費増	△12
2. 研究開発費増	△2
(A)+(B)	12

## 事業セグメント別連結売上高・営業利益の推移（第2四半期累計期間）

（単位：億円）

		19年度 2Q実績	20年度 2Q実績	21年度 2Q実績
全社	売上高	511	494	534
	営業利益	15	25	37
	経常利益	20	29	47
	四半期純利益	12	19	37
理科学・計測機器事業	売上高	317	301	295
	営業利益	△4	△3	△7
産業機器事業	売上高	112	120	145
	営業利益	32	41	58
医用機器事業	売上高	83	73	94
	営業利益	8	7	8
全社	費用	21	20	23
為替レート(1\$=)		¥ 109	¥ 107	¥ 110
為替レート(1€=)		¥ 121	¥ 121	¥ 131

# 2021年度予想 (P/L)

■ 連結売上高1,280億円/営業利益98億円/経常利益106億円/当期純利益74億円

連結数値 (P/L)

(単位: 億円)

	19年度 通期実績	20年度 通期実績 ①	21年度 通期予想 ②	前年比 ②-①	Triagle Plan 2022 (最終年度:2021年度目標)
1 売上高	1,172	1,104	1,280	176	1,340
2 売上原価	724	675	775	100	
3 (原価率)	(61.9%)	(61.2%)	(60.5%)	(-0.7%)	
4 売上総利益	449	429	505	76	
5 販管費	301	296	320	24	
6 研究開発費	78	81	87	6	
7 販売費及び一般管理費合計	379	377	407	30	
8 営業利益	70	52	98	46	99
9 営業外収益	11	16	12	△4	
10 営業外費用	9	3	4	1	
11 経常利益	72	66	106	40	100
12 特別利益	6	1	1	0	
13 特別損失	3	11	1	△10	
14 税前当期純利益	75	56	106	50	
15 法人税等	21	19	32	13	
16 当期純利益	54	37	74	37	
為替レート(1\$=)	¥ 109	¥ 106	¥ 110		
為替レート(1€=)	¥ 120	¥ 124	¥ 131		

## 営業利益増減要因分析 (対前年比)

(単位: 億円)

<b>(A) プラス要因</b>	76
1. 売上数量増	56
2. 為替差 (円安)	12
3. 原価改善	8
<b>(B) マイナス要因</b>	△30
1. 販売管理費増	△24
2. 研究開発費増	△6
<b>(A)+(B)</b>	<b>46</b>

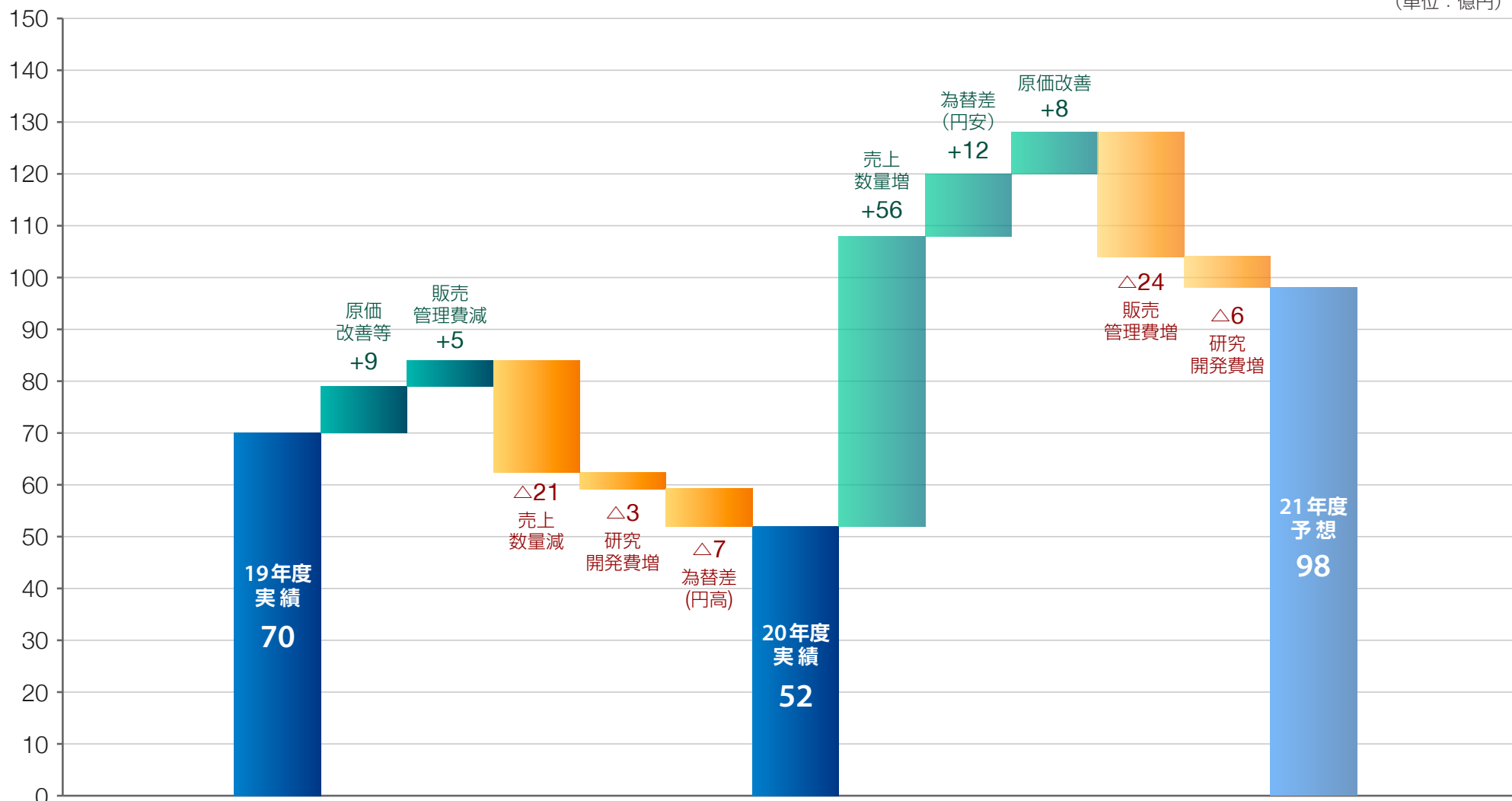




# 利益の増減要因

## 営業利益増減分析

(単位：億円)



## 事業セグメント別連結売上高・営業利益の推移（通期）

（単位：億円）

		19年度 通期実績	20年度 通期実績	21年度 通期予想
全社	売上高	1,172	1,104	1,280
	営業利益	70	52	98
	経常利益	72	66	106
	当期純利益	54	37	74
理科学・計測機器事業	売上高	766	706	820
	営業利益	27	12	32
産業機器事業	売上高	238	240	283
	営業利益	74	73	105
医用機器事業	売上高	168	159	177
	営業利益	14	9	9
全社	費用	44	42	48
為替レート(1\$=)		¥ 109	¥ 106	¥ 110
為替レート(1€=)		¥ 120	¥ 124	¥ 131

# 主要勘定の推移

## 第2四半期

(単位：億円)

(連結)	19年度 2Q実績	20年度 2Q実績	21年度 2Q実績
1 在庫	553	589	652
2 有利子負債	195	317	214
3 純資産 (自己資本比率)	421(34.3%)	469(34.3%)	774(46.0%)
4 配当金 (円)	12円	12円	14円
5 海外売上比率	63.8%	69.0%	68.0%
6 受注	593	543	838
7 受注残	534	536	913

## 通期

(単位：億円)

(連結)	19年度実績	20年度実績	21年度予想
1 在庫	532	573	578
2 有利子負債	279	327	210
3 総資産	1,368	1,464	1,712
4 純資産 (自己資本比率)	451(33.0%)	510(34.8%)	800(46.7%)
5 配当金 (円)	24円	24円	28円
6 設備投資	57	76	80
7 減価償却費	32	36	42
8 受注	1,207	1,226	1,559
9 受注残	487	608	887
10 海外売上比率	61.5%	63.5%	65.0%

## 事業環境

- 総じて受注は好調。部材逼迫の影響を最小化すべく対応中

		概況
理科学・計測機器	大学・官庁	○ <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 国内の補正予算（研究基盤強化）の受注</li> <li>■ 欧米での引き合いが復調</li> <li>■ 中国市場は引き続き活発だが関税問題で出荷遅延のリスク</li> <li>■ 各国で研究基盤強化(競争)の動き</li> </ul>
	民需（半導体）	○ <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 極東・中国地域を中心にTEMの引き合いが堅調</li> <li>■ 微細化・複雑化に伴い電子顕微鏡（TEM, SEM, EPMA）のニーズが拡大傾向</li> </ul>
	民需（他産業）	○ <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 全体的に設備投資が活発</li> <li>■ 次世代電池向けの研究開発投資が増加傾向</li> </ul>
産業用機器	描画装置市場	◎ <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 5Gの普及、EUV化の進展とともにマルチビームの需要が拡大</li> <li>■ スポットビーム描画装置も生産向けの市場（DFBLレーザー向け等）が拡大</li> </ul>
	電子銃市場	○ <ul style="list-style-type: none"> <li>■ コロナ禍以前に戻りつつある</li> </ul>
医用機器	国内市場	△ <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 生化学分析装置の市況は停滞気味</li> <li>■ 免疫分析装置の市場が拡大（コロナウイルス高感度抗原検査用）</li> </ul>
	海外市場	○ <ul style="list-style-type: none"> <li>■ シーメンス向けの受注・売上が復活</li> <li>■ 中国向けの受注・売上が拡大</li> </ul>

## 岸田総理の所信表明演説

経済政策の一つとして、「科学技術立国の実現」のため、先端科学技術の研究開発への投資について言及している。

新しい資本主義の実現の四つの柱:

- 第一の柱 科学技術立国の実現
- 第二の柱 地方を活性化し、世界とつながる「デジタル田園都市国家構想」
- 第三の柱 経済安全保障
- 第四の柱 人生百年時代の不安解消

## 自民党「令和3年 政策パンフレット」

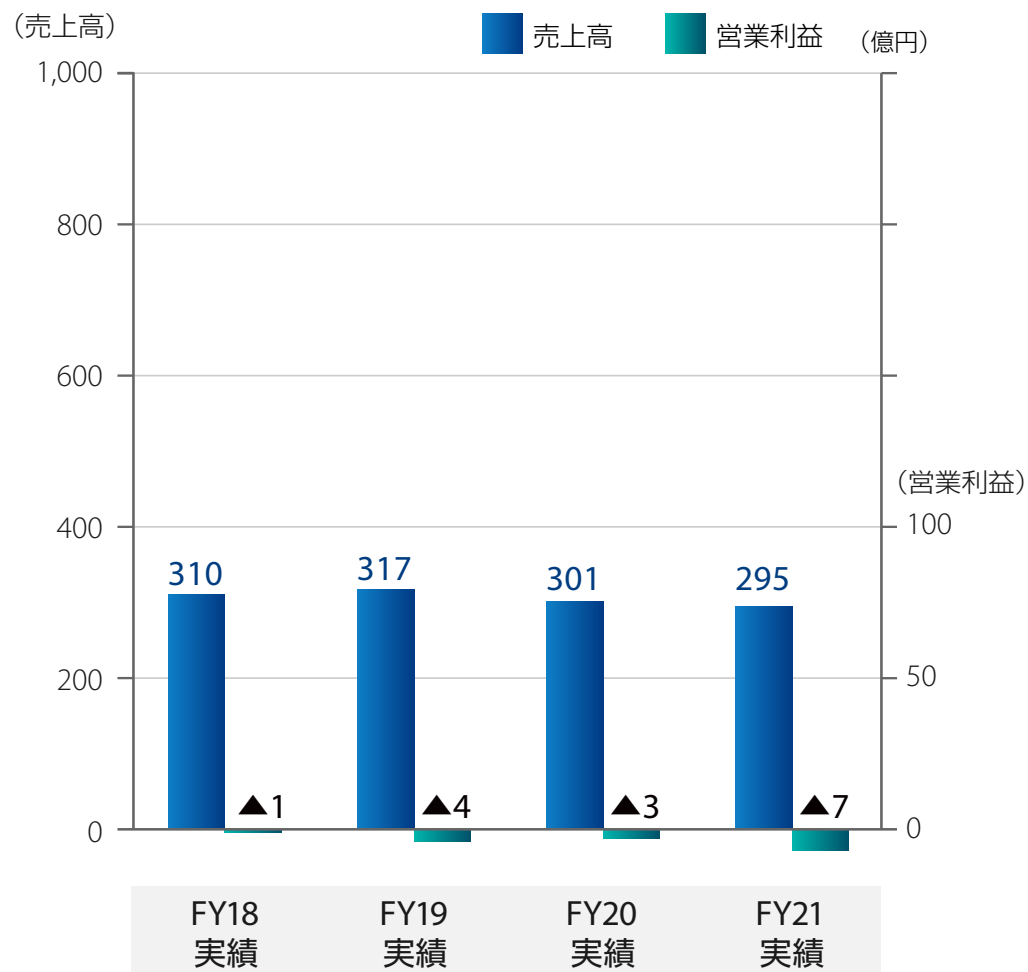
日本に強みのある技術分野として「電子顕微鏡」や「核磁気共鳴装置」に言及しており、それらの技術分野の国際競争力強化に向けた戦略的支援を掲げている。

## 2. 各事業の状況 理科学・計測機器事業

---

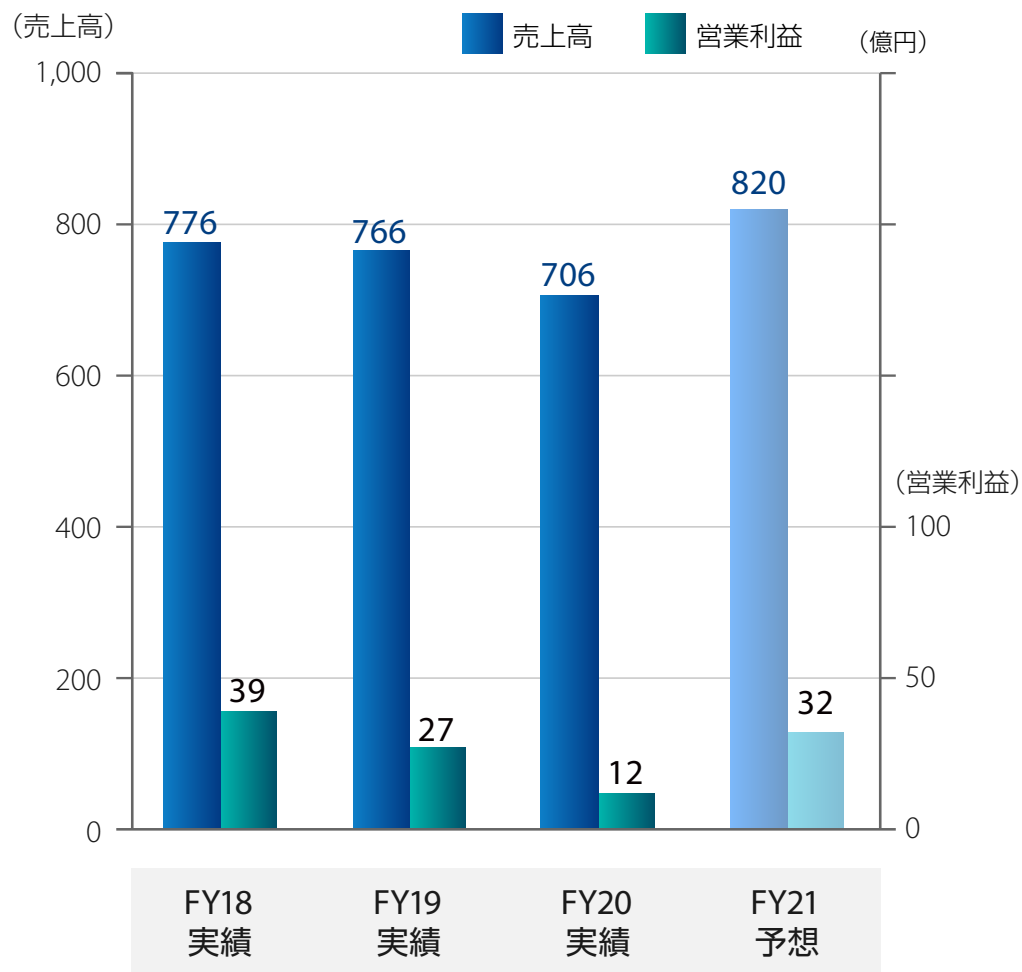
# 理科学・計測機器事業 事業セグメント別連結売上高・営業利益の推移

## 第2四半期業績推移



為替レート(1\$=)	¥ 110	¥ 109	¥ 107	¥ 110
為替レート(1€=)	¥ 130	¥ 121	¥ 121	¥ 131

## 通期業績推移



為替レート(1\$=)	¥ 111	¥ 109	¥ 106	¥ 110
為替レート(1€=)	¥ 129	¥ 120	¥ 124	¥ 131

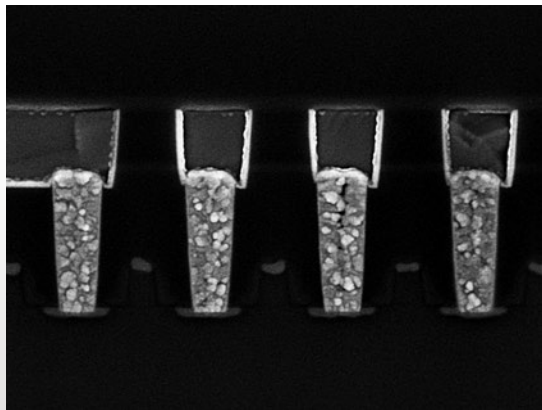
- 半導体試料観察を得意とするセミインレンズバージョンの新型SEM

短時間で容易に高画質画像と分析データ取得が可能に。

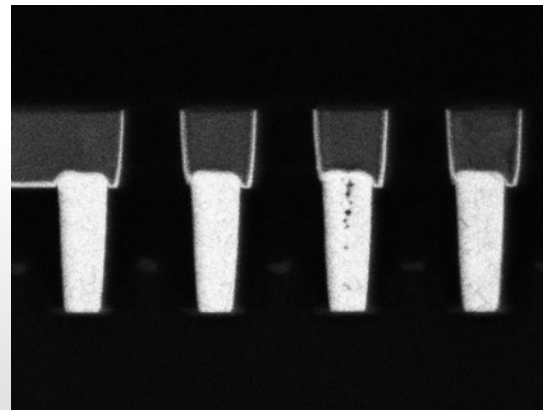
## JSM-IT800i/is

(2021年8月販売開始)

試料：ICチップ断面（表面エッチング）



— 100nm



— 100nm

入射電圧：5.0 kV（試料バイアスなし）、観察モード：SHL、検出器：UHD,UED（反射電子モード）





# 新製品 JSM-IT510の紹介 2021/11/8

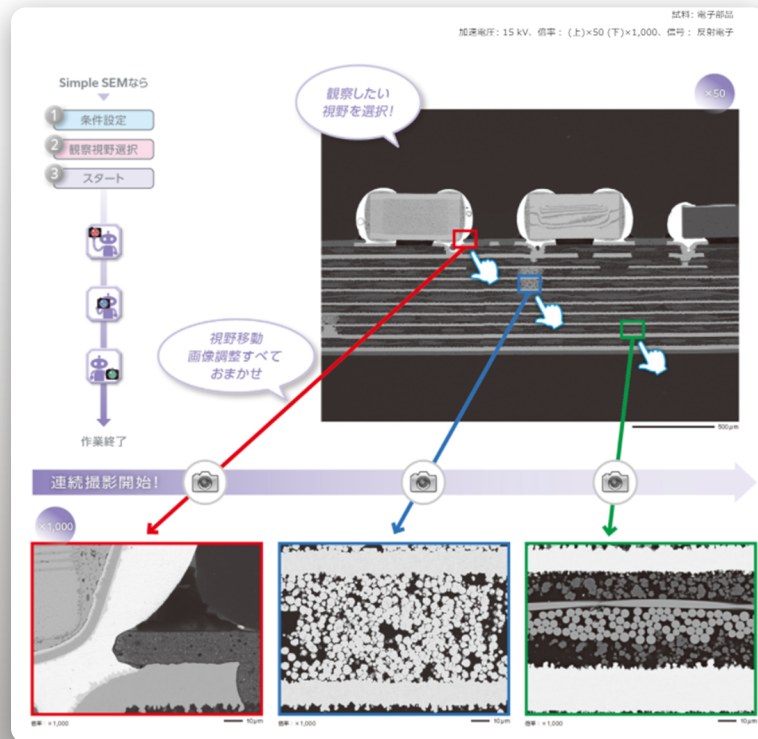
- 使いやすさとスループットを追求した新型SEM

必要なデータを、いつだってシンプルに。

## JSM-IT510

(2021年11月販売開始)

新機能のSimple SEMによりSEMの  
観察作業をより効率よく、より楽に。

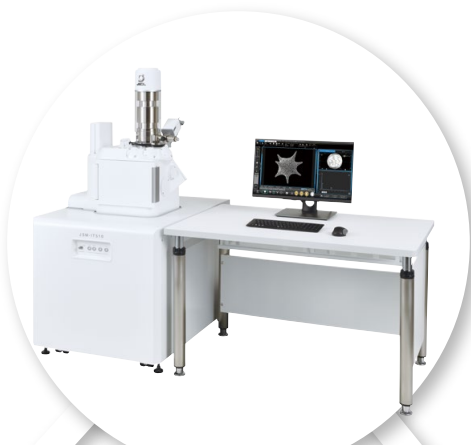


# SEMのラインナップ強化

- 今回3機種を新たにラインアップ、全てのSEMで走査電子顕微鏡とEDS分析装置の一体化が完了



JCM-7000 NeoScope™



JSM-IT510シリーズ発表



JSM-IT800シリーズ

JSM-IT800i/is  
バージョン追加



JSM-IT200シリーズ



JSM-IT700HRシリーズ

汎用性検査



高分解能  
先端分析

- 最先端のデジタル技術と高周波技術を搭載したFT NMR 装置

更なる高性能を、より小さく、より簡単に。

## ECZ Luminous (JNM-ECZLシリーズ)

### FT NMR装置 (2021年11月販売開始)

分光計のさらなる小型化と高い信頼性を実現。  
従来の低磁場溶液NMR 装置のサイズであり  
ながら、高磁場や固体のNMR 測定が可能。

#### さらに小型化された分光計

ECZ Luminousは、分光計の性能を高めると同時に大幅な小型化を実現しました。  
Rシリーズは従来相当機に対して体積が約1/3に縮小されています。



従来機同等性能機種でのサイズ比較



# MSラインナップの強化

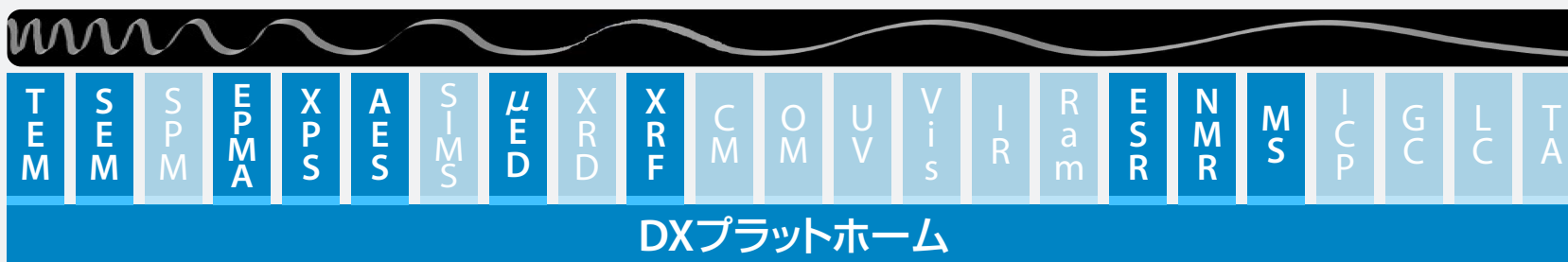
- 進化したJEOL GC-MS 3機種が、さまざまな解析ソリューションの提供を可能に



# YOKOGUSHI戦略の継続 / 強化

- 理科学計測機器事業の収益拡大に向け更に強化

## ▶ YOKOGUSHI ◀



## Solutions

研究環境  
整備

ビフォー  
サービス

サブスク  
提供

アフター  
サービス

R&D支援

個別  
アプリ

# 理科学計測機器事業の収益拡大に向けたソリューション展開

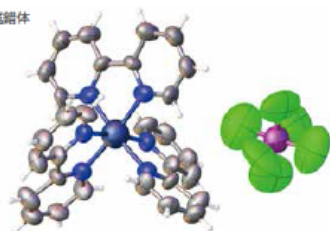
- YOKOGUSHI戦略によるJEOL独自のソリューションの提供

## Synergy-ED (電子回折構造解析装置)とECZ Luminous (核磁気共鳴装置) を用いた微小結晶構造解析ソリューション提供

### Synergy-ED

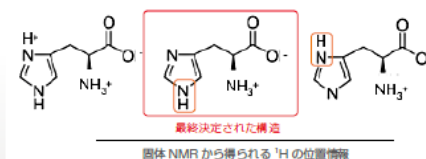
マイクロ ED 電子回折統合プラットフォーム

Ru 錯体：金属錯体



### ECZ Luminous

(JNM-ECZL シリーズ) FT NMR 装置



# 理科学計測機器事業高収益化に向けた新サービスメニュー

- JEOL独自の新たなサービスを提案

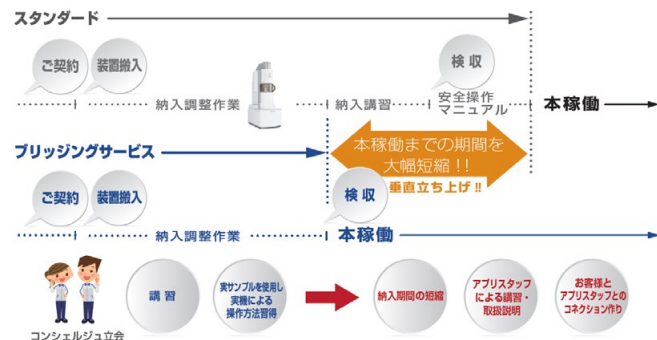
## 多様な新サービスメニュー

### ■ サブスクリプションサービス「JEOL-rento」

最新の分析装置が月々定額で利用できるサービス

### ■ ブリッジングサービス

装置導入後の「垂直立ち上げをサポート」する有料トレーニングサービス  
(本格稼働までの期間を大幅に短縮)



### ■ ステップアップサービス

“JEOL Open Lab” 装置ご利用による研究・分析業務サポートサービス

### ■ シェアリングサービス

最新の分析装置を必要に応じて利用できる時間貸しサービス

## 「JEOL-rento」を選ぶ6つの理由

**01**

最新の装置が使いやすい時に使える!

最新の分析装置を「お手元」でご利用いただけます

**02**

トータルコストが安価!

P.03, P.04

3年、6年のタイミングで運用の見直しが可能です

**03**

最新の装置で作業効率が向上

期間中にアタッチメントの増設が可能です

**04**

資産を残さず予算を有効活用

P.02

プロジェクト終了など契約期間満了後は返却も可能です

**05**

JEOLの付帯サービスがご利用いただけます

P.06

・ブリッジングサービス ・スタッフアップサービス ・保守契約

**06**

フルメンテナンス付きで安心

P.06

年1回の点検に加え、エンジニアの派遣料、部品代が含まれています

### ステップアップサービス

## StepUp Serviceのご案内

**StepUp** “JEOL Open Lab” 装置のご利用により  
「お客様の研究・分析業務のステップアップ」をサポートいたします!!

もう少し分析したい

もう少し観察したい

もう少し加工したい

StepUp

“JEOL Open Lab”

SEM FIB FE-SEM

Auger TEM NMR

シェアリングサービス

ご使用装置

※“JEOL Open Lab”とは弊社本社内にある開放デモブースになります。

## 産業機器事業

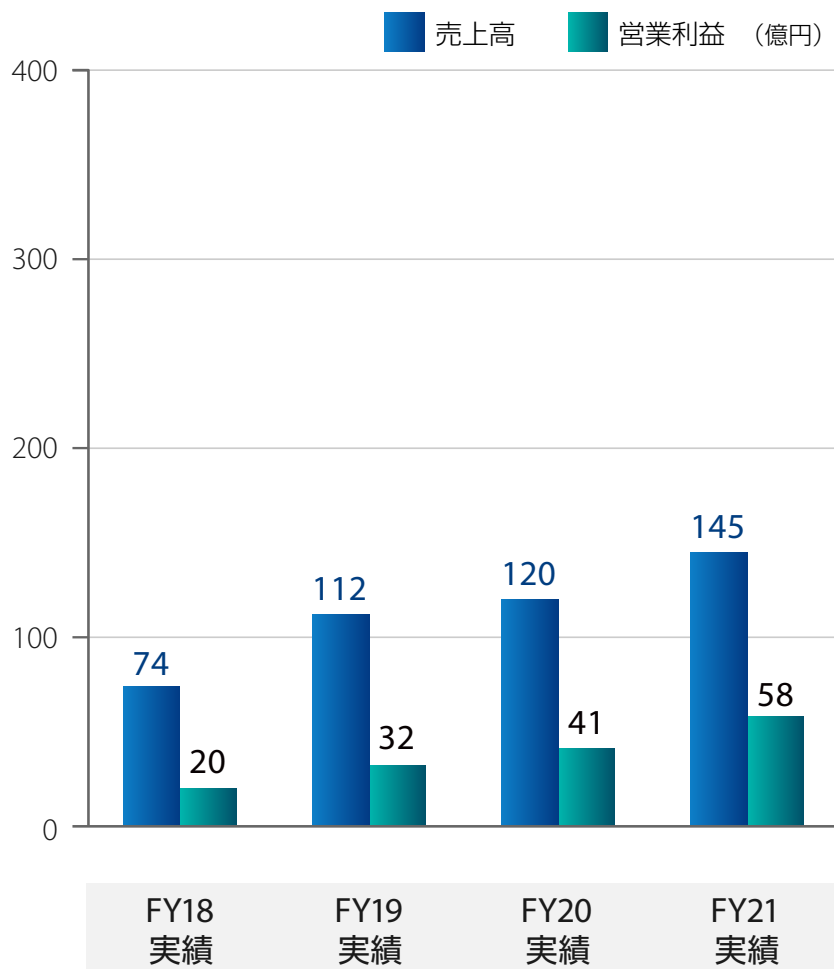
---





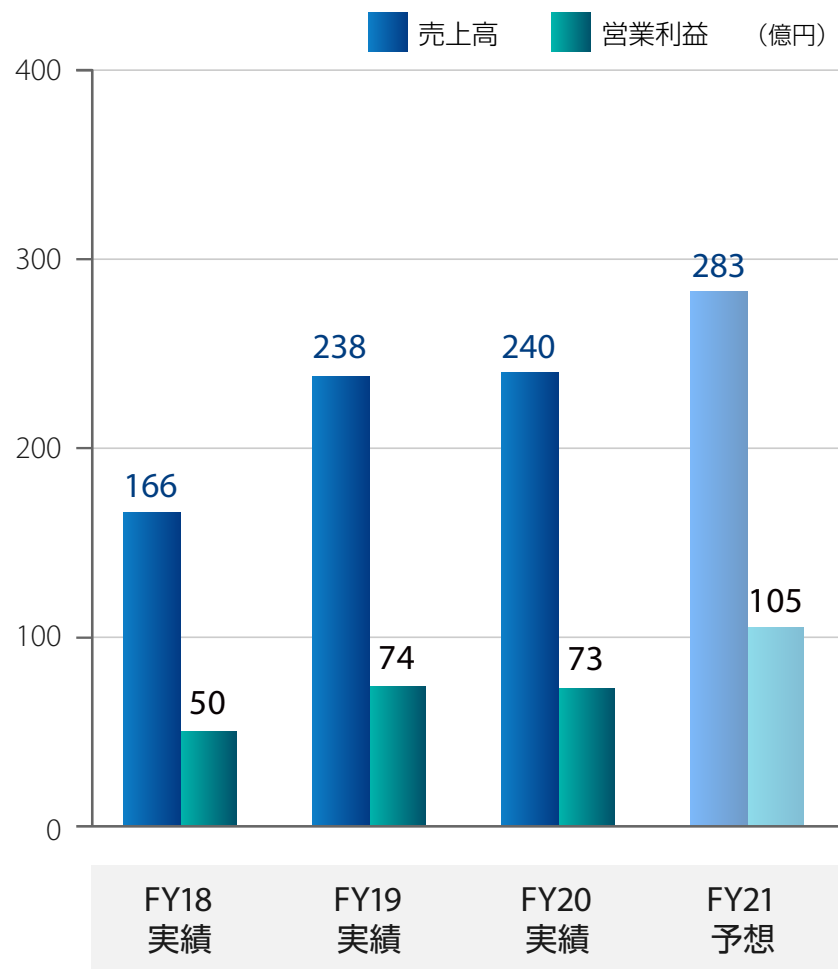
# 産業機器事業 事業セグメント別連結売上高・営業利益の推移

## 第2四半期業績推移



為替レート(1\$=)	¥ 110	¥ 109	¥ 107	¥ 110
為替レート(1€=)	¥ 130	¥ 121	¥ 121	¥ 131

## 通期業績推移



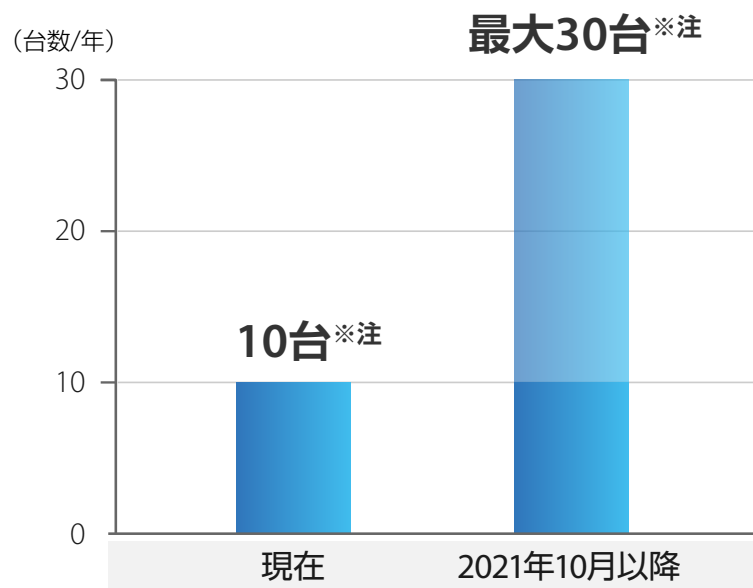
為替レート(1\$=)	¥ 111	¥ 109	¥ 106	¥ 110
為替レート(1€=)	¥ 129	¥ 120	¥ 124	¥ 131

# 新工場：武蔵村山製作所 稼働開始

- 半導体関連機器の増産対応および医用機器部門の拡充を図るため、2021年10月より操業開始



## マルチビームマスク描画装置の最大生産能力



※注：マルチビームマスク描画装置換算の最大生産能力（シングルビーム/スポットビーム描画装置の場合は生産可能台数は異なる）



マルチビームマスク描画装置の拡大する需要へ対応



需要が堅調なシングルビームマスク描画装置及びスポットビーム描画装置の生産への対応

# マルチ/シングルビーム方式描画装置の売上が拡大傾向

- 最先端 / レガシーノード向けの需要が拡大

Design rule  
Node (nm)

45-20

16/14

10

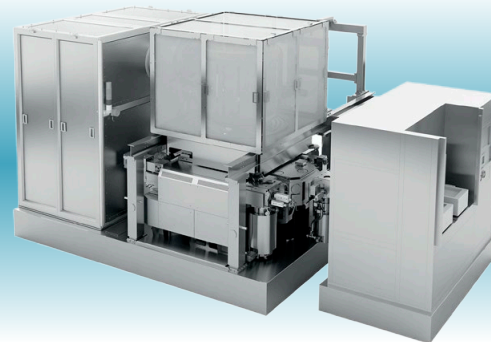
7

7+/5

3



シングルビームマスク描画装置



マルチビームマスク描画装置

# 次世代型産業用3Dプリンター

- Ti64のほか銅やInconelのレシピ開発に成功

## 最近の造形結果

▶ Material : Nickel based superalloy

Power Generator Turbine



▶ Material : Pure copper

Induction heating coil



Formnext 2021 @ Frankfurt, Germany (11/16-11/19) 出展



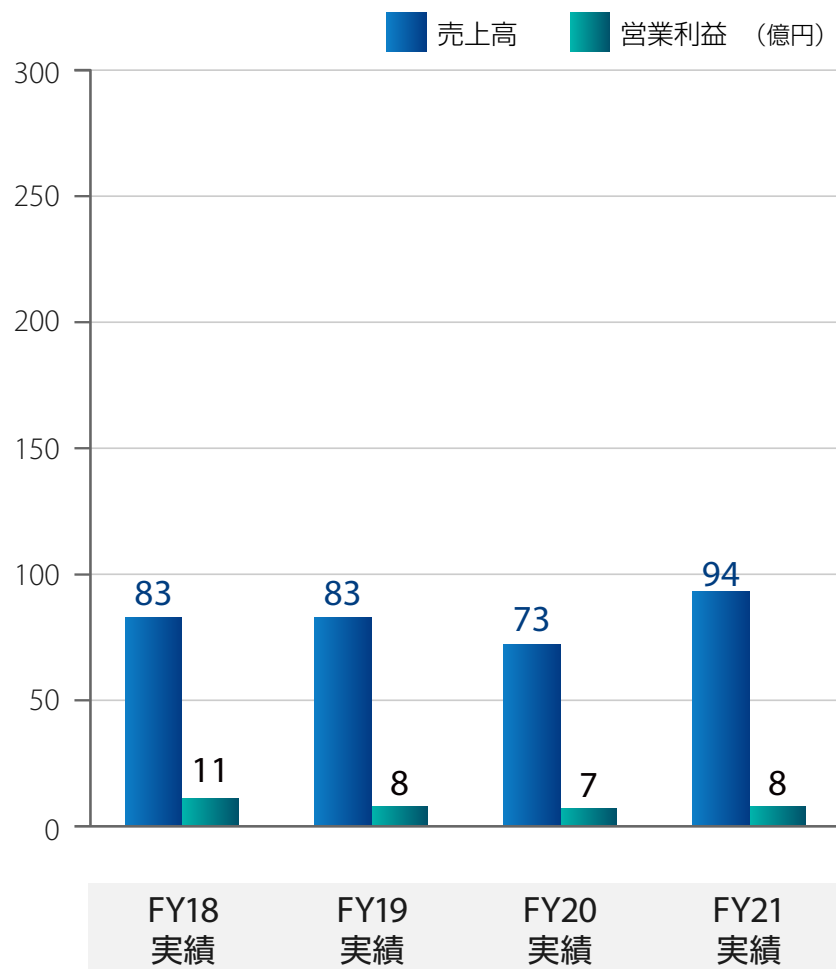
## 医用機器事業

---



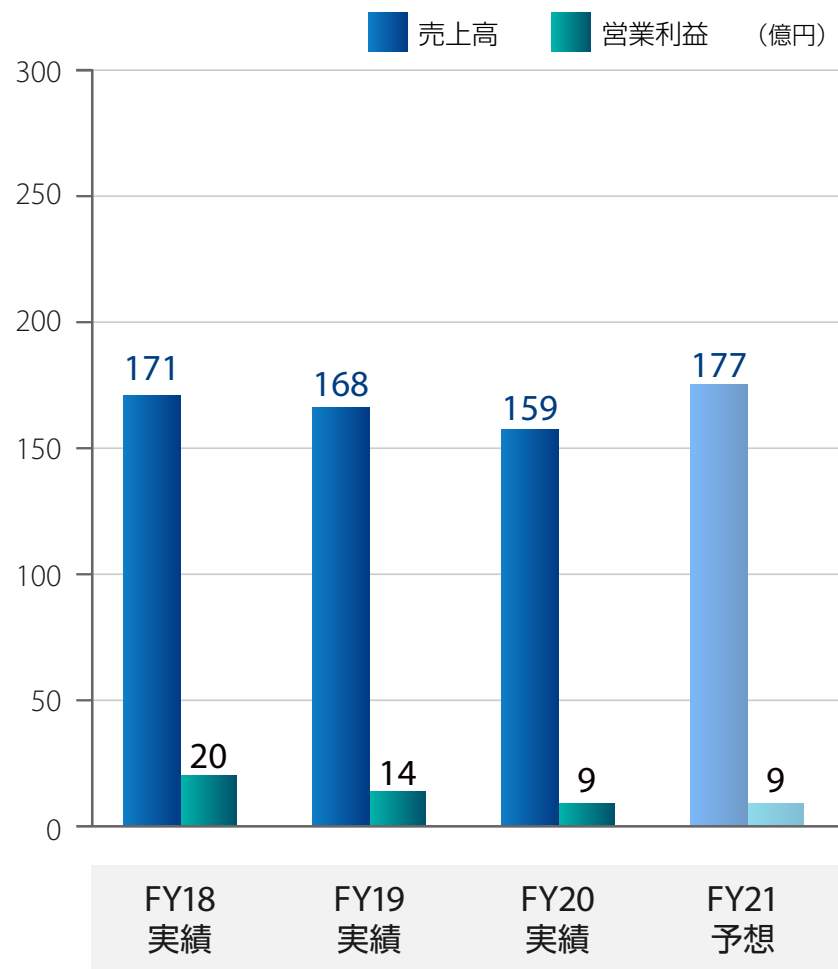
# 医用機器事業 事業セグメント別連結売上高・営業利益の推移

## 第2四半期業績推移



為替レート(1\$=)	¥ 110	¥ 109	¥ 107	¥ 110
為替レート(1€=)	¥ 130	¥ 121	¥ 121	¥ 131

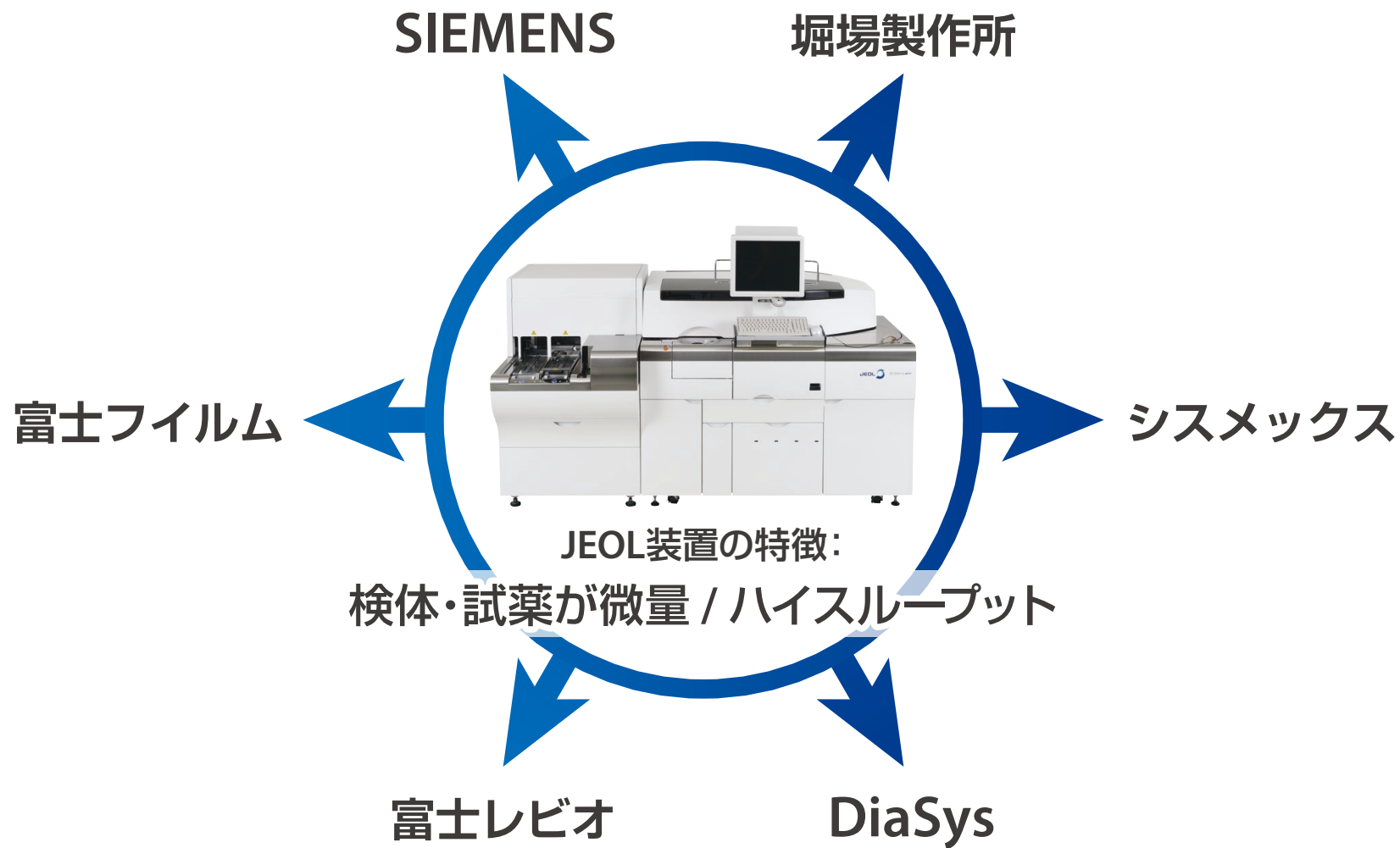
## 通期業績推移



為替レート(1\$=)	¥ 111	¥ 109	¥ 106	¥ 110
為替レート(1€=)	¥ 129	¥ 120	¥ 124	¥ 131

## 拡大する海外市場向けに競争力のある製品を供給

- 今後拡大していく海外の生化学分析市場に向け、JEOL生化学分析装置の特徴をベースに事業展開を行っていく
- 近年構築を続けてきた新たな販売ルートが立ち上がりつつあり、売上が計上され始めている



### 3. 個別事業の方向性 (ご参考資料)

---



	FY20	FY21	FY22	FY25	CAGR : FY20→FY25
世界市場規模 (M\$)	623	683	733	914	8.0%

出所：SDI Global Assessment Report 2021, Strategic Directions International, Inc. を基に当社推定

## マーケット動向

- 透過電子顕微鏡は、グリーンテクノロジー、ナノテク、材料、ライフサイエンス等の基礎研究や半導体デバイス、電池等の開発に不可欠の装置であり、市場が拡大
- 先進国ではウイルスや抗体の研究で必須のツールとして電子顕微鏡の導入が続き、ライフサイエンス市場を中心に需要が拡大している

## 技術・製品と戦略

- ハイエンドフラッグシップ機「JEM-ARM300F2」、ハイエンドベストセラー機「JEM-ARM200F NEOARM」、ハイスループット解析電子顕微鏡「JEM-ACE200F」は引き続き好評
- 急拡大するバイオ、創薬市場におけるタンパク質の構造解析用途で好評を博していた「JEM-Z300FSC CRYO ARM™ 300」は、ハイスループットデータ取得が可能で、かつ設置要件が緩和された後継機である「JEM-3300 CRYO ARM™ 300II」へ進化、ライフサイエンスの研究創出へ大きく貢献
- 生物分野や高分子材料分野に向けて、低倍から高倍までの観察スループットを向上した「JEM-1400Flash」は引き続き好評



JEM-ARM300F2 GRAND ARM™ 2



JEM-ACE200F



JEM-3300 CRYO ARM™ 300II

	FY20	FY21	FY22	FY25	CAGR : FY20→FY25
世界市場規模 (M\$)	382	396	409	444	3.1%

出所：SDI Global Assessment Report 2021, Strategic Directions International, Inc.を基に当社推定

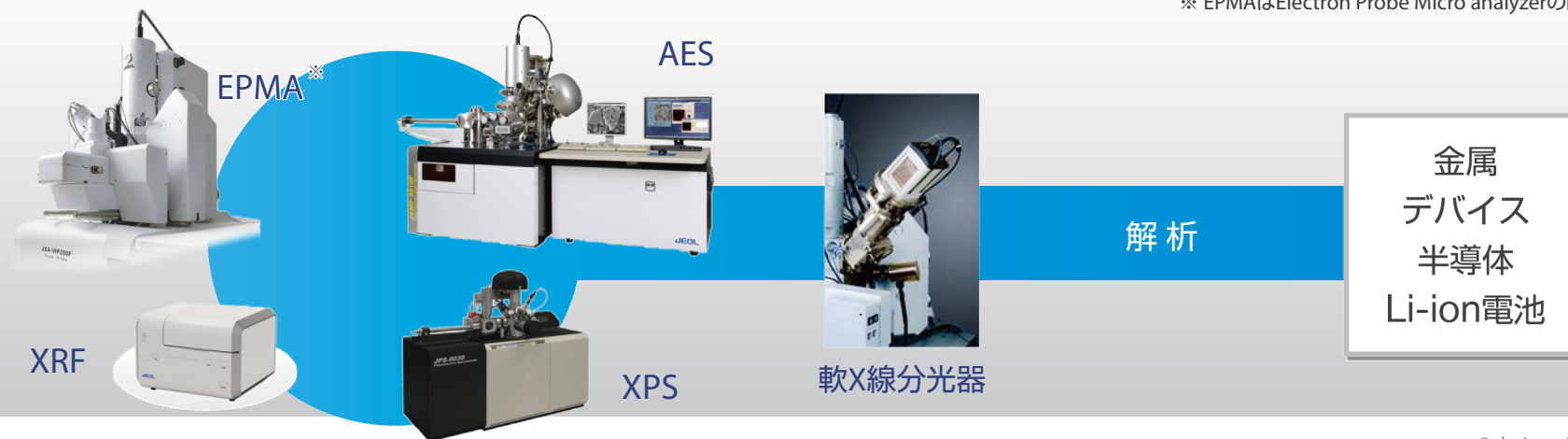
## マーケット動向

- 金属（鉄鋼/非鉄）、材料、デバイス、電池、半導体等の基礎研究から産業応用まで幅広い分野において不可欠の装置であり、市場は拡大
- 特にグリーンテクノロジー・半導体分野での需要が増加
- 地域別では中国、アジアで需要が伸長

## 技術・製品と戦略

- EPMA「JXA-iSP100」、「JXA-iHP200F」は無機材料・デバイスや鉱物研究などで引き続き好評
- 微量軽元素分析や状態分析において幅広い分野から評価されている、当社独自技術である軟X線分光器により遷移金属まで分析対象が拡大
- 表面分析装置はリチウムイオン電池やグラフェンに関する材料解析の強力なツール  
グリーンテクノロジー・半導体分野の国内外ホットマーケットで拡販強化
- 蛍光X線分析装置では食品異物分析、有害重金属スクリーニング需要に対し拡販強化

※ EPMAはElectron Probe Micro analyzerの略称です



	FY20	FY21	FY22	FY25	CAGR : FY20→FY25
世界市場規模 (M\$)	1,866	1,989	2,085	2,422	5.4%

出所：SDI Global Assessment Report 2021, Strategic Directions International, Inc. を基に当社推定

## マーケット動向

- ナノテク、材料、電池、半導体デバイス等の基礎研究から品質管理等の産業応用まで幅広い分野において不可欠な装置であり市場が拡大している
- 先進国でも需要の衰えは見えず、新興国では市場が拡大している

## 技術・製品と戦略

- 走査型電子顕微鏡ITシリーズは引き続き好評  
好評を博しているInTouchScopeシリーズには、簡便な操作と自動化機能を向上させたJSM-IT510と高分解能観察を実現するインレンズショットキータイプのJSM-IT800i/isをラインナップに追加し、幅広いユーザーニーズへの対応を充実させる
- 高機能性と使いやすさを追求した卓上型SEM「JCM-7000」は民需を中心として好調  
引き続き販売拡大を見込む



JCM-7000



JSM-IT510



JSM-IT800i/is

	FY20	FY21	FY22	FY25	CAGR : FY20→FY25
世界市場規模 (M\$)	811	846	877	967	3.6%

出所：SDI Global Assessment Report 2021, Strategic Directions International, Inc. を基に当社推定

## マーケット動向

- 材料開発、ライフサイエンス、創薬、化学等の基礎研究に不可欠の装置であり、先進国および新興国の研究開発費の伸びに支えられて市場が拡大
- 近年、NMRの持つ絶対定量性を活用した定量NMR(qNMR)法が注目され、標準物質の純度検定や医薬品生産工程における品質管理市場で普及が始まっている

## 技術・製品と戦略

- 性能と品質が市場で高く評価されていたJNM-ECZシリーズは、さらに操作性の向上/小型化したJNM-ECZLシリーズ(ECZ Luminous)へと進化。生命/物質科学や医療/創薬、材料評価、食品検査、品質管理などの多分野でユーザーが必要とする高度な計測にも対応
- qNMRは2018年のJIS規格発行に続いてISO/TC/WG24にて日本主導で世界標準化が検討されており、標準化規格検討と並行してqNMR自動分析システムの開発を進め新規顧客を開拓する
- 固体NMR用自動試料交換装置を市場投入する。この自動試料交換装置は、溶液NMRと兼用できるという他社にない特徴を備えており、ルーチンNMR市場における製品競争力が大幅に強化された



ROYALプローブ™ HFX



ECZ Luminous  
(JNM-ECZLシリーズ)

世界市場規模 (M\$)	FY20	FY21	FY22	FY25	CAGR : FY20→FY25
	4,548	4,959	5,289	6,254	6.6%

出所：SDi Global Assessment Report 2021, Strategic Directions International, Inc.を基に当社推定

## マーケット動向

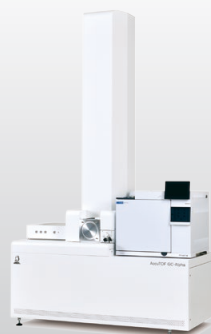
- 最先端のライフサイエンスから品質管理／環境分析等の広範な市場を形成しており、市場規模と成長率で最大級の分析装置である
- 環境分析、ライフサイエンス分野、材料解析等、それぞれの市場セグメントに適した製品群が市場に提供されている中でも環境分析とライフサイエンス分野での成長が大きい

## 技術・製品と戦略

- 高性能EIイオン源とライブラリによる自動定性解析を可能にしたガスクロマトグラフ四重極質量分析計「GC/QMS JMS-Q1600GC」の販売開始
- 複雑化する材料、多様化する環境へ対応したマルチイオン化-未知物質解析システム「JMS-T2000GC MultiAnalyzer」の販売は引き続き好調
- 17mの飛行距離を持つ飛行時間質量分析計「JMS-S3000 SpiralTOF™-plus」の材料研究開発分野での高評価を受け、販売拡大



JMS-Q1600GC UltraQuad™



JMS-T2000GC AccuTOF™ GC-Alpha



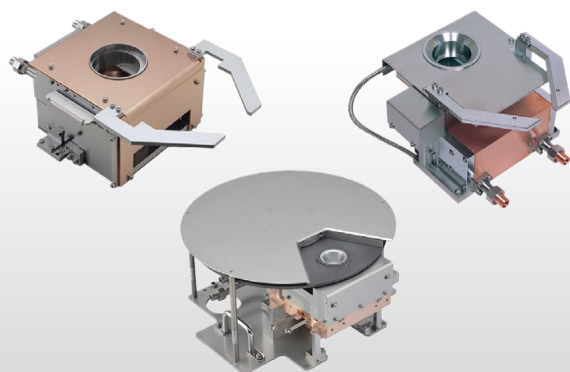
JMS-S3000 SpiralTOF™-plus

## マーケット動向

- スマホカメラや車載カメラ、監視カメラへの高機能光学膜の需要は拡大傾向
- 光通信デバイス、ミリ波デバイス生産用として電子ビーム直接描画装置へのニーズが高まっている
- 5G関連、3Dメモリー、車載デバイスなど半導体デバイス産業は市場規模を拡大している

## 技術・製品と戦略

- 赤外カメラや赤外線センサー向けに低欠陥、低光損失を可能とするボンバード蒸着源を市場投入
- 熱プラズマを利用したナノ粒子合成や球状化粉体の新規応用分野を関連企業とコラボして市場開拓中
- スポット型電子ビーム直接描画装置の最新鋭機「JBX-8100FS」を市場に展開中
- 需要が高まっているIMS社との連携による最先端マスク製作用マルチビーム描画装置は新工場(武蔵村山製作所)にて増産を開始



真空蒸着用ボンバード蒸着源



JBX-8100FS

## マーケット動向

- 新型コロナウイルス感染症の影響で健康診断等における血液検査が減少したことにより、生化学自動分析装置および免疫分析装置の買い替え需要が低下

## 技術・製品と戦略

- 生化学自動分析装置「BioMajesty™ZERO JCA-ZS050」と全自動化学発光酵素免疫測定システム「ルミパルス®L2400」との連結機「FUXION+」を富士レビオ社が市場投入
- 信頼性・機能性・安全性を向上したIoT対応のフラッグシップモデル「BioMajesty™ JCA-BM6070G」を市場投入
- 経済性・機能性・安全性を向上したIoT対応のハイエンドモデル「BioMajesty™ JCA-BM8000GX」を市場投入
- 自社ブランドおよび代理店による海外展開を推進するためJEOL (EUROPE) B.V.へ駐在員を派遣しデモ機を設置
- ソリューションビジネス（試薬・消耗品・サービス等の売上）の更なる強化による収益性の安定化を促進



生化学自動分析装置  
**JCA-BM6070G**



生化学・免疫連結機  
**FUXION+**

※FUXION+は富士レビオ株式会社の商標です  
※ルミパルス®は富士レビオ株式会社の登録商標です



生化学自動分析装置  
**JCA-BM8000GX**

#### 資料取扱上のご注意

本プレゼンテーション資料及び弊社代表者が口頭にて提供する情報には、現時点で把握可能な情報から判断した仮定及び所信に基づく記述が含まれています。

今後、経済情勢をはじめ半導体市況や研究開発投資など、弊社の業績に影響を与える様々な既知または未知のリスクによって、ここに述べられている見通しと実際の結果が異なったものとなることが否定できないことを、ご承知置き願います。